

令和7年度 金光藤蔭高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

建学精神：我々が天地の大徳によって生かされ、家族をはじめ多くの人々の祈りによって育てられていることの自覚と感謝の念から発して、その自分を大切に、将来世のお役に立つ人間となって、世界真の平和達成と文化の発展のために貢献し、そこに生甲斐と喜びを見出す人でありたいという念願に立って、教育の徹底を期する

教育理念：「人間平等」・「個性尊重」・「心を育む」を柱に、情操教育(4つの力を育てる)を推進する
(4つの力)道徳的価値を養う教育/命の尊さを学ぶ宗教的教育/美的センスを育てる教育/自ら考える力を養う教育

教育目標：① 基本的な生活習慣の確立
② 高い規範意識と社会に通ずる礼節を身につけさせる
③ 個を伸ばす指導

2 中期的目標

1 法人理念の徹底と教育理念の浸透
(1) 法人理念の徹底
(2) 教育理念の浸透

2 教育内容の充実/改編
(1) 各コースの充実 ⇒ 「スタンダード」「エンカレッジ」「アートアニメーション」「トップアスリート」スタンダード 2年次からの分岐コース：「調理・理美容」「探求」「IT」「特進」
(2) 基礎学力の定着 ⇒ 「学びなおし」の授業 / 「学びたいむ」の実施
(3) 生徒指導の充実 ⇒ 高い規範意識と社会に通じる礼節を身につけさせる
(4) 進路指導の充実 ⇒ 個を伸ばす指導を大切に、各生徒の希望に添った進路実現を目指す
(5) 土曜日の取り組み ⇒ 自由登校(令和7年度新入生から) ⇒ 「コース色を鮮明にする」・「生徒の居場所づくり」
(6) 改編案を検討 ⇒ 令和8年度からの「アートアニメーション」分野別授業細分化と音楽分野の追加 及び 名称変更
(7) 教育支援の充実 ⇒ 学校生活に不安や課題を抱えた生徒の学習面・精神面等をサポート

3 学校組織活動の充実発展
(1) 学校組織の活性化
(2) 業務を通じた人材育成
(3) 教職員研修の実施

4 広報募集活動
(1) 広報活動の充実強化 ⇒ メディアプロモーション(PV・学校案内・オープンスクール・入試説明会・Instagram・ホームページ)
(2) TOIN QUEST ⇒ 年2回の実施

5 創立100周年に向けて
(1) 学園本部の指揮の下、校内体制を構築

【自己評価の結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価の結果と分析
【アンケート】
○生徒・保護者<令和8年2・3月実施>授業内容を中心に学校生活全般について調査した。(保護者15項目、生徒15項目)
○教職員 <令和8年4月実施>授業評価・生活指導・学校改革の成果について検証した。(15項目)

【分析】
○生徒・保護者アンケートではほとんどの項目で約80%以上の生徒が肯定的な意見を示している。
○教職員による自己評価では、「各コースのそれぞれが特色を生かした学習活動を実践した」と100%の教職員が実感している。また「課題を抱える生徒について担任・学年・教育支援・生徒部・スクールカウンセラーが連携し組織的に丁寧に取り組んでいる」の項目でも約92%の教職員が共感実践している。今後も一人一人の生徒に寄り添った、丁寧な教科指導、生活指導を継続していきたい。

学校評価委員会からの意見(学校評価委員会：5月15日実施)

【学校評価委員】
①学識経験者：柴田 聖子(大阪バイオメディカル専門学校 理事) ②学識経験者：小川 雅司(大阪産業大学法人本部事務局事務局長付・経済学部前教授)
③本校PTA会長：塚本 由香氏 ④地域防災委員長：新居見 英夫

1. 法人理念の徹底と教育理念の浸透
建学精神の徹底について、生徒の73%、保護者の88%が「心の教育」を実感している点は特筆すべき成果です。入学後、感謝の心や社会貢献の意識が醸成されていることは、日頃の教職員の真摯な教育活動の賜物であると高く評価いたします。

2. 教育内容の充実改善
(1) コース内容の充実・検制
「スタンダードコース」における実績(目標比81%)を踏まえた迅速なカリキュラム改編への着手は機動力ある対応です。「エンカレッジコース」の進級率87%、卒業率100%という数字は、長年培われたノウハウと粘り強い指導の具体的な成果といえます。「アートアニメーションコース」の進路接続や、「トップアスリートコース」の実績向上は本校の核となる強みとして今後も期待しております。
(2) 基礎学力の定着と向上
「学びたいむ」や「学びなおし委員会」を通じた視写の導入など、生徒のニーズを的確に捉えた土台づくりがなされています。生徒による授業満足度92%、保護者満足度91%という高評価は、丁寧に分かりやすい授業づくりの証左です。一部、課題となる授業については組織的な改善を継続していただきたいと思っております。
(3) 生徒指導の充実
転退学率が目標(5%)を超えた背景には、近年の多様な課題を抱える生徒の増加という困難な状況が推察されます。その中で、生徒指導案件が前年比-8件と減少した点「人権侵害ゼロ」は教員のきめ細かな予防指導の成果として誇るべきものです。
(4) 進路指導の充実
進学率82%を維持しつつ、進路未決定者に対しても最後まで粘り強く寄り添う姿勢を維持していただきたいと思っております。
(5) 令和7年度入学生からの改編
土曜日自由登校という参加を強制せず、生徒の自主性を重んじた多様な講座展開(全14回)により、延べ153名が参加した実績は、初年度として非常に良好なスタートです。生徒は自分のクラス、コースにとらわれずに学んでみたい講座に参加できる仕組みをつくったことで生徒の学ぶ意欲、居場所づくりになったと思っております。
(6) 令和7年度立案 令和8年度入学生からの改編
アートアニメーションの専門分野細分化と音楽分野(吹奏楽)を追加した切り口は新鮮です。37名入学を糧に、さらなる伸びしろに期待しております。
(7) 教育支援の充実
「COCOROの部屋・カフェ・食堂」のCOCOROサポートが、生徒・保護者・教員の三者にとっての「居場所」として機能しています。この取り組みは本校への帰属意識も高めています。外部連携も含め、「預かった生徒を必ず卒業まで導く」という本校の「面倒見の良さ」が体现されています。

3. 学校組織活動の充実発展
ベテランと若手が協力して課題解決に挑む姿勢を、教員の81%が認識している点に組織の活力を感じます。管理職による積極的な研修提示も、教育力向上に寄与しています。また、教職員全体に必要な研修の機会を設け、常に教職員がブラッシュアップすることに取り組む姿勢も素晴らしいと思っております。

4. 広報募集活動の充実強化
入学目標310名での達成は敬服いたします。学校案内の早期発行やSNS活用、体験行事の工夫が実を結んだ形です。「Toin Quest」の実施頻度の見直しなど、PDCAサイクルに基づいた戦略的な広報を次年度も期待しております。

5. 創立100周年に向けて
記念事業部長のポスト新設や、若手・中堅を含めた全教職員によるビジョン策定は次の100年を見据えた極めて建設的な動きです。全員が「自分事」として一致団結し、地域や保護者からさらに信頼される学校づくりを推進されることをご期待申し上げます。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">法人理念の徹底と教育理念の浸透</p>	<p>(1)法人理念の徹底</p> <p>ア 建学精神の徹底</p> <p>イ 本部参拝・感謝祭</p> <p>(2)教育理念の浸透</p> <p>ア 情操教育の実践</p>	<p>(1)法人理念の徹底</p> <p>ア 建学精神を全ての教育活動の基本とし、教職員・生徒・保護者への啓発に努める</p> <p>イ 宗務課と調整のうえ、実施を検討する</p> <p>(2)教育理念の浸透</p> <p>ア 道徳的価値を養う、命の尊さを学ぶ、美的センスを養う、自ら考える力を養う教育を学校生活全般を通して意識し実践する</p>	<p>ア 指導を通じて、建学精神の理解を深める</p> <p>イ 「天地・人・物への感謝から、将来社会のお役に立つ人間に」という「心の教育」を本部参拝・感謝祭を通じて施す</p> <p>ア HR・授業・課外活動や学校行事を通じて、生徒の上層面を育てる</p>	<p>ア 生徒73%・保護者88%が心の教育を実感していると認識している。式や行事の他、学年集会や日々のホームルームでの指導が生徒に浸透しているようである。また昼休みや放課後、神徳堂（お広前）を訪れる生徒も多く、宗務課教員との対話を通して心の癒しを得ている生徒も多い。</p> <p>イ 73%の生徒が学校行事として認識している。令和7年度は2年生代表生徒35名が本部参拝を実施することとなった。感謝祭・宗教の授業の中で「日々生かされている」「世のお役に立つ人間になる」ことへの意識喚起を促すことができた。感謝祭では参列した3年生全員が、感謝の気持ちをもって日々の学校生活を過ごす決意を新たにされた。</p> <p>ア 97%の教員が諸活動を通して、情操教育の実践に取り組んでいると認識している。</p>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教育内容の充実改善「コース検証・学力向上・生徒指導・進路指導</p>	<p>(1)新コースの充実</p> <p>ア スタANDARD</p> <p>イ エンカレッジ</p> <p>ウ アートアニメーション</p> <p>エ トップアスリート</p>	<p>(1)コース内容の充実・検証</p> <p>ア 新コース立ち上げ2年目「あらゆる進路に対応できる」コースを目指す1年次総合学習前期にて、国・数・英の「学びなおし」、また、後期には2年次からの分岐コース選択に向けたガイダンスを実施する</p> <p>イ エンカレッジについては、具申書・入学前面談等を十分活用して、中学からの引継ぎを行い、個別の教育支援計画・高校生活カードを作成し、生徒・保護者との連携を密にし、学びなおしと体験をテーマに展開する</p> <p>ウ アートアニメーションについては、デジタル制作とアナログ制作のバランスを考え、創意工夫の幅を広げること目標に展開する</p> <p>エ 最大人数のコースとして、競技力の向上はもとより、人間性の部分で学校を牽引できるような生徒を有するコースとなるよう指導を徹底する</p>	<p>ア 2年次からの分岐コース選択で、生徒が適性分野に進むことができるよう丁寧に指導する</p> <p>イ 意欲的に学ぶことができる環境づくりを進めることで、生徒の意欲・満足度を高める。</p> <p>ウ 総合的プレゼンテーション能力の向上を図り、作品発信の場を増やす</p> <p>エ 全国大会・ブロック大会への出場と生徒募集の拡大、進路指導の充実を目指す</p>

	<p>(2)基礎学力の定着と向上</p> <p>ア 「学びなおし」の取り組み</p> <p>イ 「学びたいむ」の実施</p> <p>ウ 「藤蔭塾」の開設</p> <p>エ 公開授業の実施</p> <p>オ 進学講習の実施</p> <p>カ 生徒による授業評価</p>	<p>(2)基礎学力の定着と向上 在籍生徒全体の基礎的学力の定着と、進学希望生徒の学力向上を図る</p> <p>ア 1 年次「総合的な探求の時間」での学びなおし(スタンダード・エンカレッジ)</p> <p>イ 週 4 日、放課後の 25 分間を利用して、幅広い分野の学習を行う(トップアスリート以外)</p> <p>ウ 放課後、図書室の一角を開放し、外部講師が希望生徒の自学自習をサポートする</p> <p>エ 授業改善・授業力向上に向けて研究授業を実施する</p> <p>オ 全コース対象に、3 年次放課後に大学進学講習を実施する</p> <p>カ 生徒による授業評価を授業改善に活かす</p>	<p>ア 基礎学力定着を目指す</p> <p>イ 視写による学習基盤の確立を図る</p> <p>ウ 生徒の自主的な学習習慣をサポートする</p> <p>エ 公開授業を年間2回の期間を設けて実施する</p> <p>オ 志望大学合格を実現</p> <p>カ 教諭・常勤講師全員が生徒による授業評価を実施して分析する</p>	<p>ア 基礎学力の定着を目指し、前期(4月～9月)において国語・数学・英語の3教科で「学びなおし」授業を実施した。中学校の復習的な内容で授業を展開したが、クラスによって進捗の差がみられた。</p> <p>イ 「学びなおし委員会」を中心に視写を取り入れた学習の基礎をつくる取り組みを行った。次年度からは全学年で実施する。学年ごとに「学びなおし」教材を工夫し実践した。 今後の課題として各クラス間でモチベーションの差異がないよう、担任間の連携を密にし、環境整備につとめたい。</p> <p>ウ 自学自習サポート教室(藤蔭塾)も大学院生のアシスタントによるきめ細かなサポートのおかげで、生徒たちの学習意欲を高めることができた。 全83回開講・延べ293名が参加した。</p> <p>エ 令和7年度は、3学期内の1回に留まった。年2回実施できるように教務部中心に計画性をもって取り組む。</p> <p>オ 放課後に実施した進学講習・特別講習を受講した生徒の全員がその内容に満足している。</p> <p>カ アンケートでは「授業はわかりやすく、工夫がされているか」との質問に92%の生徒が満足としている。 同じく「本校では基礎学力向上に向けて丁寧でわかりやすい授業を行っている」との質問に91%の保護者が満足していると回答している。 しかし、科目別担当者によっては課題となる授業がみられたので、教科内で共有し教員一人一人の課題克服・授業改善につなげたい。</p>
--	---	--	---	---

	<p>(3)生徒指導の充実</p> <p>ア 生活習慣・学習習慣の確立</p> <p>イ SNS 関連を含む生徒間トラブルや、生徒指導事案の防止</p> <p>ウ 生活面・学習面に課題を抱える生徒への対応</p> <p>エ 人権侵害事象の根絶</p> <p>オ 挨拶・マナー等の徹底</p>	<p>(3)生徒指導の充実 「基本的な生活習慣」「学習習慣」の確立を目標に、登校状況や授業態度を中心に丁寧な指導を心掛ける</p> <p>ア 転退学者を極力なくす 「3年間お預かりして育てる」「社会のよき構成員として世に送り出す」という使命感を大切に進級・卒業に必要な基盤を整える</p> <p>イ 高校生として望ましい友人関係の構築が困難な生徒が一定数いるため、対面での意思疎通が適切にできるよう指導する SNS の弊害や正しい使い方を指導する</p> <p>ウ 担任・学年を中心に、教務部(教育支援係)・生徒部・スクールカウンセラーが連携し、組織的に丁寧に行う</p> <p>エ 道徳的価値・命の尊さ・社会規範を理解させ、生徒間の人権侵害事象を起こさせない</p> <p>オ 礼節(挨拶・礼儀・節度ある行動)の意義を説き、学校内外のあらゆる場面において習慣化できるよう指導を徹底する</p>	<p>ア 転退学5パーセント以下を数値目標とする</p> <p>イ 日常から指導事案の発生を防止するための事前指導に重点を置く</p> <p>ウ 進級・卒業に向けた幅広い学校生活のサポートを丁寧に行う</p> <p>エ 人権侵害事象ゼロを目指す</p> <p>オ 望ましい服装・身だしなみや挨拶などを習慣化させる</p>	<p>ア 転退学者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度→62名(6.61%) 転学29退学33 ・令和5年度→55名(6.76%) 転学28退学27 ・令和6年度→36名(4.5%) 転学18退学18 ・令和7年度→57名(7.02%) 転学40退学17 <p>令和7年度の転退学率は7.02%と5%以下の目標を達成できなかった。 転退学者の約90%は「不登校」を含む「学校生活学業不適応」や「進路変更」が理由であった。 入学生の多くが小・中学時に家庭的、経済的、学習的に多くの課題を抱えている背景があることは否めない。 生活習慣未確立や学習習慣のない生徒の自尊感情の醸成にさらに力を入れ、出席状況や授業態度の改善に取り組みたい。</p> <p>イ 全体の生徒指導案件は昨年の25件から17件と減少した。 そのうちSNSの不適切な使用による事案が年々増加傾向にあり、HRや学年集会、保護者懇談会等で今後も注意をよびかけ、保護者との連携のもと事案を未然に防ぐように継続して指導していきたい。</p> <p>エ 人権侵害事象はゼロであった。</p> <p>オ 96%を超える生徒が「ルールを守り、挨拶もきちんと行なっている」と答えている。いろいろな場面での挨拶指導が浸透してきている。</p>
	<p>(4)進路指導の充実</p> <p>ア 進学実績の向上</p> <p>イ 適合職種への就労実現</p> <p>ウ 体験型プログラム</p>	<p>(4)進路指導の充実</p> <p>ア 志望進学先で必要な学力や実技力を習得させ、進学実績向上を図る</p> <p>イ 卒業段階での未進学者・未就労者の数を極力減らすことを目標とする</p> <p>ウ 上記、ア・イ実現のため、外部と連携して、分野別ガイダンス・職業体験プログラム等、多彩な進路行事を計画・実行する</p>	<p>ア 第1志望合格を前年度よりアップさせる</p> <p>イ 進路未決定率を前年度より減らす</p> <p>ウ 1・2年次から将来の進路について考える生徒を増やす</p>	<p>ア 令和7年度の全体の進学率は昨年度81.8%から81.5%とほぼ横ばいである。 大学進学率は昨年度の47.9%から47.8%とほぼ変わらず、専門学校進学率が32.2%から33.3%と増加した。 大学合格者数の約41%が指定校推薦で、専門学校は80%が総合型(AO)であった。</p> <p>イ 進学希望者の中での未決定率は浪人希望を含め0.8%、就職希望者の中で就職内定率は96.9%であった。 その他の未決定者数は3名。進路未決定者ゼロを目指し、今後も粘り強い進路指導を継続していきたい。</p> <p>オ 8月の関西福祉大学見学会や、進路ガイダンス等を通して個々に応じた進路を自己分析させている。</p>

	<p>(5)令和7年度入学生からの改編</p> <p>ア 土曜日自由登校</p> <p>イ 魅力ある講座設定 生徒の居場所作り</p>	<p>(5)時代の流れ、生徒のニーズに合わせ、本校の特色を活かした新たな展開へ</p> <p>ア 週30単位とし、土曜日は希望者のみ登校 各生徒の趣向によって自由に選択できる講座を用意する</p> <p>イ 学習面から実技指導まで様々な分野の講座を設定し、生徒はクラス・コースにとらわれず、どの講座にも参加可能とすることで、普段とは違う居場所を得ることができる</p>	<p>ア 参加を強く促すのではなく、生徒の自主性に任せ、後押しする</p> <p>イ 普段と違う居場所を提供することで、生徒の登校意欲につなげる</p>	<p>ア 令和6年度の改編から、年32単位から30単位へと変更し、土曜日は自由登校日とした。 今後も必要に応じて、他校の動向・世の中の流れを的確に掴み順次対応していきたい。</p> <p>イ 土曜日の自由登校日については、各コースの取組を中心に多様な講座を設けた。全14回実施し延べ153名が参加した。 講座内容については、各教科テスト対策講座や「デッサン・イラスト」、「理科実験」、「被服実習」、「マイクラフト」、「社会科フィールドワーク」、「卓球大会」、「金光教近隣教会訪問」等を実施した。</p>
	<p>(6)令和7年度立案 令和8年度入学生からの改編</p> <p>ア アートアニメーションの新しい展開</p> <p>アートアニメミュージックへ</p>	<p>(6)アートアニメーションの専門分野細分化と、新分野「吹奏楽」の追加 また、名称変更</p> <p>ア 1年次から4つの分野を選択し、3年間受講【with art】【with animation】【with brass band】【with actor】 また、新たに音楽分野を追加し、対象生徒の幅を広げる</p>	<p>ア 選択分野の授業が増えることで、専門性が鮮明になることや、新たな分野を加えることで入学生増に繋げる</p>	<p>ア 令和8年度入学生から、アートアニメーションコースを改編し、1年次から4つの分野を選択できるアートアニメミュージックにコース名及びカリキュラム変更を行った。 令和8年度入試において、37名が入学した。 今後は2クラス編成(60名)を目指しコースの充実を図りたい。</p>
	<p>(7)教育支援の充実</p> <p>ア 3つのCOCOROサポート</p> <p>イ 外部連携校の協力</p> <p>ウ 教務部教育支援</p>	<p>(7)教育支援の充実 学校生活に不安や課題を抱えた生徒の学習面や精神面等をサポート</p> <p>ア 「COCOROの部屋」 スクールカウンセラーによるカウンセリング 対象:生徒・保護者・教職員 の希望者</p> <p>「COCOROカフェ」 放課後、神戸女子大学学生が生徒の居場所作りの一環としてレクリエーションを行う</p> <p>「COCORO食堂」 保護者対象でワークショップ等にて交流した後、軽食にて意見交換を行う</p> <p>イ 生野支援学校リーディングスタッフによる授業観察並びに教員へのコンサルテーションで、指導の方向性を検討</p> <p>ウ 必要に応じて、ケース会議・認定委員会を設置し、適正な対応、支援の方法を検討する</p>	<p>ア スクールカウンセラー・学生・その他外部スタッフと本校教員が連携し、生徒・保護者が安心して学校生活を送ることができる環境を提供する</p> <p>イ 個別の支援計画を元に、生徒の個性にあった指導を行う</p> <p>ウ 一人でも多くの生徒を進級・卒業させる</p>	<p>・例年、入学する新1年生(エンカレッジコース受験者・具申書及び中学校から引き継ぎのある生徒)に対し、生徒・保護者との入学前面談(69組)を実施。</p> <p>ア COCOROの部屋:開設回数は40回。面談者の内訳は、生徒47名、保護者20名、教員98名。</p> <p>COCORO カフェ:開設回数は48回。利用者の延べ人数は1学年:116名、2学年:74名、3学年:19名、計142名。</p> <p>COCORO 食堂については年4回実施し64名の保護者が参加し、スクールカウンセラー・教育支援担当教員・担任と交流した。</p> <p>イ 例年実施しており、アセスメント・面談・研修会等で継続的な協力体制を構築している。</p> <p>ウ ケース会議対象者数9名、開催回数8回。 上記の9名を認定会議につないだ。 疾病を起因とする登校困難生徒2名については、別室登校・試験及びオンラインでのHR・授業を活用し卒業することができた。</p>
<p>学校組織活動の充実発展</p>	<p>(1)学校組織の活性化</p>	<p>(1)学校組織の活性化</p> <p>ア 組織的・機動的な学校体制の確立 教科・クラブの指導では専門性、学年・分掌組織では組織力・機動力・実行力を高め、各々の連携による活発な業務活動を目指す</p>	<p>ア 適性と循環を考慮した人事配置を行う 将来を見据えた教職員の採用を行う</p>	<p>ア 準専任教員選考には9名の常勤講師が臨み、令和7年度の任用はなかった。 常勤講師は任期満了者に代わり、新規に6名を採用した。 生徒の学習指導や教育活動に熱心に取り組む教員の採用に今後も全力を尽くす。</p>

	<p>(2)業務を通じた人材育成</p> <p>ア 後進の育成</p> <p>イ 融合と発展</p>	<p>(2) 業務を通じた人材育成</p> <p>ア 各分掌の組織的業務を通して経験豊かな教職員は、後進が5年後、10年後に後継者となるよう育成する</p> <p>イ 課題を抽出、ベテラン・若手が協力して発展的な改編を検討し、課題解決を行う</p>	<p>ア 管理職や校務運営委員が中心になって、重要な学校課題を解決する</p> <p>イ 教職員間の対話を深め、建設的な議論を積極的に行う</p>	<p>ア 新任の常勤講師を対象に研修を充実させ、学年部長や分掌長が中心となり学級経営、生活・学習、学校業務に関する細かい指導を行った。</p> <p>イ ベテラン・若手が協力して課題解決と新しい取り組みにチャレンジしているかの項目に教員の81%がその取り組みを認識している。</p> <p>また管理職（教頭補佐）が様々な校内・校外研修を提示し、若手教員も積極的にそれに参加し、自己研鑽力を高めている。</p>
	<p>(3)教職員研修の実施</p>	<p>(3) 積極的な教職員研修の実施</p> <p>ア 今年度予定されている教職員研修</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 金光教宗務課研修 2. 「ガン」研修:教職員・生徒 3. 人権教育研修 4. 救急法・AED 等研修 5. 教育支援研修 6. その他 	<p>ア 教職員全体に、共通認識として必要なこと、また今後考えていかなければならない課題について考える機会を設け、組織的教育力の向上につなげる</p>	<p>ア 1. 宗務課研修については、武部和加子先生（金光教香檀園教会）をお招きし「困難を乗り越えられる人が持っているもの」～養育里親に取り組んで～をテーマに講演していただいた。</p> <p>2. 教職員・生徒対象「ガン研修」において大阪国際がんセンター 総長 松浦成昭氏（医師）に講演をいただいた。</p> <p>3. 人権研修において「戦後80年日本の歴史を学び未来について考える」をテーマに知覧特攻平和会館の大隣健二氏に講演をいただいた。</p> <p>4. 救急法・AED 等研修会を3学期に実施した。</p> <p>5. 教育支援研修においては、主に教育支援担当者が大阪私立中・高等学校カウンセリング研究会に参加した。</p> <p>6. 管理職による新任教員研修会及び学園本部主催の新任教員研修会も実施。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">広報募集活動の充実強化</p>	<p>(1)広報活動の充実・強化</p> <p>ア 組織的広報活動運営</p> <p>イ メディアプロモーション</p> <p>ウ 生徒募集について</p>	<p>(1) 組織的・多角的な入試広報活動へ</p> <p>ア 総務部入試広報の組織的な広報展開 渉外担当:5名、教員:5名、事務室:1名の各担当者が中心となり、広報活動を運営する</p> <p>イ メディアプロモーションの拡大</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校案内・ポスター制作 2. 入試説明会・オープンスクール企画 3. 個別相談会・中学説明会・塾長説明会 4. プロモーションビデオの制作 5. HP・Instagramでの発信 (学校生活・行事・クラブ・食堂など) 6. ノベルティグッズの作成 <p>ウ 入学生徒の確保 本校の「特化コース制」による教育内容と、心の教育に基いた「面倒見の良さ」をアピールし、受験生(保護者を含む)・中学校・塾等から信頼を得ることができるよう努力する</p>	<p>ア オープンスクール(Toin Questを含む)・入試説明会・中学校教員対象入試説明会・塾長対象入試説明会・個別相談会の開催と、私学展参加の際の丁寧かつ明確な説明で、志願者増を目指す</p> <p>イ 受験生とその保護者だけでなく、広く本校の魅力を発信することで、「行きたい学校」の選択肢として認知される状態を目指す</p> <p>ウ 令和8年度入試において、300名を超える入学者数を確保したい</p>	<p>ア 本校の特化した学びの魅力をより伝えるため中学生・保護者対象のオープンスクールを前年の3回から4回とし、その内、全日・回遊型広報行事(TOIN QUEST)を2回実施した。入試説明会は昨年同様に3回実施した。</p> <p>塾長対象・中学校教員向けの説明会もそれぞれ実施した。</p> <p>またエンカレッジコース対象の個別相談会を2回実施した(相談者数229名)。</p> <p>オープンスクール(438名)・入試説明会(377名)の参加生徒数は昨年度より72名増の815名であった。</p> <p>イ 令和7年度は学校案内冊子の発行を早め、中学校への速やかな広報活動を開始した。</p> <p>またホームページをはじめ公式Instagram・LINE・YouTube等を活用し、中学生や保護者によりわかりやすく親しみやすさをアピールし、学校行事等もタイムリーにアップするよう努めた。</p> <p>ウ 新入生310名となり目標を達成することができた。令和8年度はスタンドコースの充実・アートアニメミュージックコース・カリキュラムの改編を全面に中学校・塾にアピールし、広報活動の強化・充実を図りたい。</p>

	<p>(2) Toin Quest の実施</p> <p>ア Toin Quest 増設</p>	<p>(2) 昨年度 1 回 ⇒ 令和 7 年度 2 回実施へ</p> <p>ア 全日、各ブースにて体験講座を用意し、参加者は自由に散策しながら希望する講座を受講できる広報行事「Toin Quest」を今年度は2回行い、本校の魅力を発信する</p>	<p>ア 「楽しみながら体験できる」という点を前面に押し出し、多くの参加者を集める</p>	<p>ア 前年度に続き「TOIN QUEST」という名称で回遊型の広報行事をオープンスクール全 4 回のうち 2 回実施した。</p> <p>2 回実施したことで、オープンスクール全体の参加数が分散してしまった印象がありオープンスクール全体の参加数増加に繋がられなかった。</p> <p>ニーズは高いと考えられるので、次年度はブラッシュアップした上で、回数を 1 回に設定しタイミングを第 1 回入試説明会の後に実施することで集客を図っていきたい。</p>
<p>創立 100 周年に向けて</p>	<p>(1) 学園本部の指揮の下、校内体制を構築</p>	<p>(1) 学園本部の指揮の下、校内体制を構築</p> <p>ア 令和 8 年度(100 周年)に向けて、教職員一人一人が本校の将来像を描きながら、日々の業務に向き合い、機運を高める</p> <p>イ 学園本部の指揮のもと、100 周年記念事業に係る校内体制を構築する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記念祭(感謝祭)・物故者慰霊祭 2. 記念藤蔭祭 3. 記念体育大会 4. 記念芸術文化鑑賞 5. 記念講演 6. 記念誌制作 	<p>ア 大きな節目となる学園創立 100 周年に向けて、次の 100 年を見据えた教育活動の展開を創造する</p> <p>イ 記念式典・行事に対し人員を適正配置し、令和 8 年の実施に向けて堅実に計画・準備する</p>	<p>ア 若手・中堅の教職員の意見・アイデアを取り入れながら本校の 5 年後・10 年後の希望に満ちたビジョン・目標に向けた話し合い等の実施。</p> <p>一人一人の生徒に誠実に真摯に向き合い、保護者との連携をさらに深め、教職員が魅力ある学校づくりのために日々研鑽しチャレンジできる環境を整えるようにする。</p> <p>イ 100 周年事業に向けて、記念事業部長を新たに設けた。</p> <p>校長をはじめ教職員が一致団結して取り組んでいる。</p>